

# 子育て世代が親の老いに直面する時

ダブルケア当事者を取り巻く現実と理想のシニア像

～大村里美さんの場合～

「男女が、社会の対等な構成員として自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保される社会」を目指す「男女共同参画社会基本法」が公布・施行されてからまもなく20年。施行当時20代だった若者たちもいまや30代後半から40代となり、「男女共同参画社会」の理想と現実のはざまで就職・結婚・出産など人生のさまざまな節目を経験してきた。彼らのライフステージに次に影響を与えるのは「親の老い」ではないだろうか。

近年、「ダブルケア」という言葉がメディアで取り上げられるようになってきた。ダブルケアとは、子育てと介護が同時期に重なる状態を意味する言葉だ。晩婚・晚産化などを背景にこの状態にある人は増えているとされる。内閣府では平成27年度の調査で男女計25万3000人が該当し、当事者の平均年齢は40歳前後と推計している。

大村里美さん（44）もまた、義父母と敷地内同居で一児の子育て中に、両父の介護に直面した経験を持つ女性だ。

「男女共同参画世代」の30代～40代はどのような子育て期を過ごし、シニア世代となつた親の老いをどのように捉えていいのだろうか。また自らはどのようなシニアライフを目指したいのか。ダブルケア経験者として、子育てや仕事、地域活動や市民活動に携わりながら、自分にあったペース、生き方を模索する一人の女性として、大村さんに話を聞いた。

（薬科可奈）

いますが、出産後もお仕事を続けることは考えなかつたのですか？

大村（以下、大）妊娠中までは仕事を続けるつもりだったので、娘が生まれたらできるだけ子どものそばで成長を見守りたいと思ふようになりましたが、娘が生まれたらどうようになります。悩んだ末に退職しました。

薬科（以下、薬）富士宮市に生まれ育った大村さんは、結婚を機に富士市で生活を始めました。パートナー（56）の実家は自宅の隣にありますね。結婚後はホームヘルパーとして働き、長女の出産と子育てのために退職して

麟市にあるところ、比較的子育てがしやすい生活環境だったと思うのです。積極的にサークルに活動に関わるようになったのはなぜですか？

大 夫は当時から現在まで、平日は仕事が忙しくほとんど家にいない状態です。その代わり隣に住む義父母が熱心に孫育てに参加しようとしてくれて、初孫たつこともあり乳幼児期には子育てについていろいろとアドバイスをもらいました。ありがたいと思う反面、義父母の、昔ながらの子育て方法やしつけに対する考え方に戸惑いました。例えば、離乳食の内容や子どもの服装など、子どもに関するさまざまなことに意見されて、内心傷ついたこともあります。

初めての子どもを授かった当時の私は、母親としてナーバスになっていました。育児書通りにいかない子育てと、黒牴りをしていないので義父母や親戚が不意にやって来るかもしないという状況で、常に気が張っていたのだと思います。そのような乳幼児期、子育て支援センターはほつとできる場所でした。私と同じ母親の立場で、お互ひの悩みに共感し合い、地域の情報を共有できる子育てサークル仲間とも出会い、とても救われました。

そんな自分の経験から、後輩ママたちの支援をしたいと思うようになり、子育てサークルの運営に携わったり、富士市の男女共同参画団体『きらり交流会議』に所属したり、子育てをしながら地域の子育て支援の市民活動などに参加し、2015（平成27）年と2016（平成28）年には富士市子ども子育て会議の委員も務めました。

## 専業主婦の前にそびえる再就職の壁



大村里美さん（44歳）1973（昭和48）年富士宮市生まれ。平成11年に結婚を機に富士市へ転入。保育施設にパート勤務のかたわら、子育て支援等さまざまな地域活動に積極的に参加している。中学生の姉弟の母。

薬 お子さんたちが小学4年生と2年生になった頃から夏季限定の児童クラブ指導員補助や幼稚園の送迎バス添乗員など、短時間勤務の仕事を始めていますね。再就職を目指すなかで困ったことはありましたか？

大 社会人として職場への責任を果たすうとするほど、自分の子どもへの親としての責任が果たせなくなるのでは、と悩みました。面接の際は「子どもの学校の行事に参加したい時など、子育て優先を理由にシフトの変更をお願いすることがある」と、正直に伝えてきましたが、その結果不採用だったこともあります。子どもの帰宅時間には家にいたいと思つたら、私が勤ける時間帯は限られます。だから興味を持った仕事であつても、希望する勤務時間帯と合わなくてあきらめたこともあります。

子どもがいなかつた頃は当たり前のように仕事を優先できました。しかし今は、日々葛藤しながら自分と家族の予定をやりくりしています。理想は子育て中は土日休みで、学校行事やボランティアや市民活動、親の病院や子どもの習い事のつき添いもでき、時間に融通のきく仕事がいいです。職探しを経て、現在はやりがいのある理想に近い職場で働くことができています。経済的には妥協が必要ですが、いまはまだパートの週3、4日で、扶養の範囲に収まる働き方が自分にはちょうど良いと思っています。ただ子育てにお金がかかる時期にさしかかっているので、現実的にはもうと出勤日を増やすなくてはいけない、という状況ではあります。

**大** 富士市の自宅から都内に通勤する夫に、平日はまつたく頼れません。敷地内同居の義父母も年を取つて車の運転ができなくなり、変ですよね？

## 突如あらわれる 「ダブルケア」の影

**薬** 初めて親の介護を意識するようになったのはいつですか？

**大** 娘が幼稚園の年中で、息子が3歳未就園児の頃です。富士宮に住む実父が脳内出血で倒れ緊急手術になりました。実母は元気で、

子どもの送迎などを頼めなくなりました。となると、例えば、子どもの急な体調不良などの緊急事態は本当にキツイです。夫や両父母は、「子育てのために父親が仕事休む」という発想がないので、必然的に私が仕事のスケジュールを調整して子どもを病院に連れて行かなければなりません。夫から「夫から労いの言葉でもあれば救われますが、当たり前と思われている」といライライしますよね。下手に気持ちを伝えると「自分が大変だと思つて」と悪く受け取られてしまいそうで、うまく伝える方法はないかな…と悩みます。

**家** 家族みんながベストな  
介護プランなんてない

**薬** お義父さんの介護のキーパーソンはお義母さんだったのですね。

**大** はい。義美家の家事や義父の身の回りの

パートに出始めたころ娘が作ってくれたマスク。子どもの応援が励みに



子の体調不良は母の予定にも影響大

実家の近くには妹夫婦が住んでいたこともあります。私が介護を中心になつて使うキーパーソンではありませんでした。それでも、父の状態が落ち着くまでの数日間は、実母を中心におと妹の二人で24時間、交代で付き添わなければならず、私は義父母に子どもを預けて実父の付き添いをしました。

交代で付き添いを始めて数日で、この3人だけで24時間看護する生活は続けられないと思った。幸い、父は回復し面会時間のみのつき添いでよくなつたので、私は娘が幼稚園に行つている間か夜に病院へ通いました。父はその後リハビリ病院への転院を経て退院し、現在は後遺症もなく実家で以前と同じ生活に戻ることができます。

**薬** 幼い子を抱えての看護という「ダブルケア」の状況下で、義父母が子どもを預かつてくれたことは助かりましたね。

**大** はい。実父が入退院した当時は、義父母も元気でしたから。困った時は子どもを預かってくれたり、娘が小学校低学年の頃は毎日下校の時間になると学校まで歩いて迎えに行つてくれたり、とても助かりました。

でも5年ほど前、義父が80歳の頃に転んで足首を骨折し、それから徐々に、当時76歳の義母を中心とした義父の介護が始まりました。

世話は、ほとんど義母が担っていました。義父母と私たちは同じ敷地内でも住まいが別なので、義母は私に手伝いを頼みにくかったのかかもしれません。実の娘ではなく嫁だから、遠慮もあつたのだと思います。

はじめは、車椅子から自力で歩くことを目指していた義父もいつの間にか現状維持が目標になりました。入院時につけた尿道カテーテルも外れず、そつこつしているうちに義母がストレスから体調を崩してしまって…。私は出産前は介護職に就いていました。介護福祉士の資格も持っています。しかし当時義父への直接的な介護は頼まれませんでした。結婚後、私が求められたのは、月数回の通院時の送迎と不安な気持ちの聞き役くらいでした。結果、私が求められたのは、月数回の通院時の送迎と不安な気持ちの聞き役くらいでした。義母が私や息子たち（夫・義弟）に期待していたのは、自宅で義父の世話をすることではなく、義父を家から施設等へ外出させ、義父と一緒に過ごす時間を減らしてほしいということだと感じました。

そこで私は介護支援制度を調べて、ありゆる可能性をざぐりました。デイサービス選び、施設への入所や入院した場合の相談、ケアマネジャーとの話し合いの段取りは私がやりましたが、最終的に介護方針を決めるのは義父と義母でした。義父の希望も尊重しつつ、義母を精神的にどう支えるか悩みました。身体は不自由でも頭はしっかりしている義父は、家にいたいと望んでいました。しかし、義母と一緒に「まずはリハビリで歩行機能を回復しよう」と義父を説得して、デイケアやデイサービス、ショートステイを気が進まない



子育て支援のイベントのため大村さんが作った掲示物。子どもたちも協力してくれた市民活動の経験は現在の仕事でも役に立っているそうだ

大 富士宮に住む実父が脳内出血で倒れ緊急手術になりました。実母は元気で、

**家** 家族みんながベストな  
介護プランなんてない

**薬** お義父さんの介護のキーパーソンはお義母さんだったのですね。

**大** はい。義美家の家事や義父の身の回りの

がらも利用してもらいました。

義父は骨折してから約5年車イス生活を送った後、病気で徐々に体調が悪化して寝たようになりました。義父の介護問題が始まつた当初、私はどちらかといえば義父の味方でした。好きなように家でゆっくりさせてあげればいいのに、と思つていました。でも動けなかつた義母は、体調を崩すほどストレスをためてしましました。家族でいろいろ考えてても上手くいかない。みんなが納得できるベストな方法はないのだと悟りました。

## 「嫁の責務」へのモヤモヤを晴らした夫の言葉

藁 お義父さんの病院の送迎などをパートナーが担当することはなかったのですか？  
大 交代制勤務の義弟がタイミングが合えば手伝つてくれましたが、義父母は子育ての時

藁 お義父さんは「人が死ぬ」ということを孫に見せてくれました  
大 世話をなつて悪いけど頼むねという感じでした。それに、実の両親にも「仕事より嫁として大村の両親に近くしなさい」と言われました。  
藁 大村さんは子育てを優先したいと望み、それに合わせた働き方、生き方を選んできたのに、「時間の融通が利くから」、「お嫁さんだから」と義父母の主なサポート役を当然のように求められたのです。その現実に対して大村さんに葛藤はありませんでしたか？  
大 私は、性別に関係なく子育てや老いた両父母の面倒を見るのは自然なことと思つていました。ですから、当たり前に仕事を優先する夫や、息子には遠慮している義父母、「嫁の務め」を説いてくる父母に、仕方ないと思つながらもモヤモヤしていました。

## 娘と息子に願うことと自分の理想のシニア像

藁 義父母との関わりを振り返つてみて思うことは？

大 私たちが完全同居だったよかつたのかなとか、もし私が正社員として働き続けていたら介護休暇を取れてもっと介護ができるた

病院中に孫たちと。義父は「人が死ぬ」ということを孫に見せてくれました

と一緒に、息子たちに仕事を休ませてまで自分たちの病院通いを手伝わせるという考えはありませんでした。夫自身も同じでした。

藁 でも、大村さんも仕事や子育てのスケジュールを調整しながら通院に付き添う時間を作つていたはずですね。そのことに関してお義父さんやお義母さんは抵抗を感じなかつたのですね。

大 世話になつて悪いけど頼むねという感じでした。それに、実の両親にも「仕事より嫁として大村の両親に近くしなさい」と言われました。

藁 大村さんは子育てを優先したいと望み、それに合わせた働き方、生き方を選んできたのに、「時間の融通が利くから」、「お嫁さんだから」と義父母の主なサポート役を当然のように求められたのです。その現実に対して大村さんに葛藤はありませんでしたか？

大 私は、性別に関係なく子育てや老いた両父母の面倒を見るのは自然なことと思つていました。ですから、当たり前に仕事を優先する夫や、息子には遠慮している義父母、「嫁の務め」を説いてくる父母に、仕方ないと思つながらもモヤモヤしていました。

夫に「一体誰の親なの？」と気持ちをぶつけたこともあります。夫は「言葉にしないけど察してよ」というタイプで、自分の気持ちを伝えてくれることが少なく、夫婦で分かり合えないことが悲しかつたこともあります。それでも、平日は仕事が忙しいかわりに、休日は家族で過ごすことを好む良き父親の顔はありました。

その後、義父は5年間の在宅介護を経て末



「家族の負担軽減のために、公的な支援サービスを肯定的に使える高齢者になりたい」と話す大村さん

かなどか、仮定をあげばきりがないですね。娘の将来にもいろんな生き方がありますね。もし、私たちが経験したようなダブルケアの当事者になる可能性もあると仮定すれば、親が元気なうちに結婚出産して、親や公的なサポートを受けながら仕事と子育てを両立して、福利厚生がしっかりとしている職場の正社員として勤務し続けることがいいのかも、とも思います。まるで私自身の生き方を否定するような想像ですが（苦笑）、子育てや介護にはお金がかかりますから。出産や夫の転勤や、自分の意志で退職したとしても、再就職のしやすい資格やキャリア、生きていける力を持つてほしいですね。

藁 では息子さんはどのような大人になつてほしいですか？

大 いま思春期真っ只中の息子には、母親の言葉はなかなか届きませんが、家庭をもてたら、家事や育児、介護や地域の係など妻に任せきりにせず、積極的に参画してほしいですね。

藁 そして子どもを授かったときには、自分自身が「第一の子ども」にならなければ家事力をつけてもらいたいです。

大 大村さん自身がシニア世代になった時に、今からどんな備えが必要だとthoughtsか？

大 自分自身と夫の健康を保つことや、経済的に自分自身ができるだけ自立すること。そして家族それぞれが家庭、働く場所、地域や趣味の居場所があることが必要だと思っています。

藁 夫が定年退職を迎えた後どのような生活（いわゆる第二の人生）を送つてほしいか、

夫婦で話し合っていますか？ 例えば、セカンドライフを豊かにできるような、パートナーの趣味や交友関係などありますか？

大 夫が定年退職してもまだ子どもたちは学生なので、元気なうちは働いていてほしいです。できれば家の近くの職場で。まだ子育て真っ最中なので、具体的な話し合いは持っていないのですが、話し合いではなく日々の話題にちよちよこと出していけたらなと思います。夫の定年後は、夫が日々楽しいと思える生活をしてほしいです。夫は買い物や運転が好きで、社交的だからこの集まりにも入つていける人。それらを楽しむために重要なのは、やはり健康でいることだと思います。

大村さん自身はどんなシニアになりたい

ですか？

大 私だけでなく、私の周りの同世代の友人は、自分が高齢になつても子どもは頼れないし負担をかけたくないと言います。自分が元気なうちは家族のサポートができる存在でいいですね。高齢になり、助けが必要な時は夫や子どもだけでなく、他人にも素直に身をゆだねることができ、一番大切な家族の負担を軽減するために、公的な支援サービスを肯定的に積極的に使える柔軟な考え方を持つています。

団塊ジュニア世代の大村さんは、子育てと仕事の両立に悩み、同時期に親の老化に直面している。その経験から、子どもたちにはライフステージに左右されずにキャリアや経済力を維持できる資格取得や働き方を、そして経済力だけでなく生きていく上で必要な家事力（すなわち生活力）をも備え自立した人間に育つてほしいと望んでいた。シニア期に差しかかった親世代の背中を見て育つた彼女たちは、昔ながらの「家」制度の名残である「嫁」や「跡取り」の枷を次世代に引き継がせたくない。また老後は、できるだけ家族をサポートし続けられる存在として、子どもたちに依存しなくても健康的で充実したシニアライフを目指したい。

私たち、誰もが子育てや介護に主体的に参画できる社会制度の充実を求める。それはつまり、「男女共同参画社会基本法」が目指す社会のありかたそのものだ。子どもたちにより良い未来をと願う人たち一人ひとりが、「誰もが働きやすく、子育てしやすく、介護しやすく、生き生きとしたシニアライフを送れる社会」の実現を求めて声を上げ続けなくてはいけない。そして、シニア世代から受け取った男女共同参画社会を求める想いのバトンを、次世代に受け継いでいかなくては、と思う。

## ラノベ（ライトノベル）のススメ

趣味の選択肢が広がった昨今、せっかくだからマイドキな趣味を新しく始めたい、という方におすすめしたいのが「ラノベ」（ライトノベル）。ラノベとは、若者を中心に人気急上昇中の娯楽小説。読書は好きだけ長く読んでいると疲れてしまう、かといって漫画はとっつきにくい…と感じる方や「若い人と小説の話をしてみたい」「若い世代がどのような本を読んでいるのかを知りたい」と考える方にぜひ手にとってもらいたい、新感覚のジャンルです。

その魅力は、なんといっても読みやすさ。とにかく楽しく分かりやすくモットーに、ずっと頭に入つくることを追求した文体と、華やかな挿し絵は、手軽に読むのにぴったりです。電子書籍でスマートフォンやタブレットでも読むことができ、文字の拡大機能があるのも便利です（勿論書店でも購入できます）。そのなかでも、今回はシニア世代が活躍するものを紹介します。

まずは、ドラマ化もされた『三匹のおっさん』（文春文庫 著：有川浩）。還暦を迎えたかつての悪ガキが、町内の平和のために立ち上がる痛快勧善懲惡もの。孫も大きくなり定年退職する年になっても、おじいちゃん扱いされることに納得がいかない幼なじみ三人組。痴漢にチンピラ、悪徳詐欺などに、昔とった杵柄で立ち向かう自警団となって大活躍。悪との対決だけでなく、孫の初恋や、定年後の再就職、素敵な老婦人との再婚話で大わらわな三人に、隠居の二文字はありません。

趣味の世界でもう一花咲かせたい！ という方におすすめなのは『オケ老人！』（小学館文庫 著：荒木源）。お年寄りばかりのアマチュア樂団の奮闘記で、団員は酸素吸入器をつけていたり、認知症が始まっていたりと前途多難。しかし音楽のこととなれば皆格好よく、何よりひたすら楽しそう。読み終えたら誰かと一緒に趣味を始めたくなる1冊です。

冒險やファンタジーが読みたい方におすすめなのが『老人と宇宙』（ハヤカワ文庫 SF 著：ジョン・スコルジ）。地球を守る宇宙防衛軍が舞台のSFアクションですが、なんと兵士が全員75歳以上という超高齢化軍隊。自ら志願したお年寄り達は科学の力で若返り、ロマンスあり、壮絶な肉弾戦ありの過激な余生を送ります。必ず生きて帰ると誓う前途ある若者達とはまた違う、ただ老いるのを拒み戦場で散ると決めた老兵達の姿は、生涯現役を目指す方必見です。

（酒井美優）



榎本雅之さん(64歳)



浜松市民映画館  
シネマイーラ  
<http://cinemae-ra.jp/>  
浜松市中区田町315-34  
☎053(489)5539

連で男性の最高齢は93歳、女性も90歳代の方が数人います。浜松の街に出て映画を観る、ということが生活の目的になっています。

## ◆シネマイーラの成り立ち

私が、シネマイーラをスタートさせたのは2008(平成20)年12月。浜松東映が閉館することになり、映画館を存続立ち上げ、来年で10年になります。年間150本ほどの作品を扱い、2016年末で総上映本数は1,000本を超えた。観客層の中心であるシニアの方々と経営者の私自身が同世代なので、観客がどんな映画を観たいのかが感覚的にわかるのは、強みだと思っています。

## ◆映画を観るのは女性が多い?

シネマイーラの会員は現在約1,100人、そのうちの7割が60歳以上で、そのうち7割が女性です(2017年7月現在)。常

50歳以上の場合は、「夫婦50割引(男女カップルのどちらかが50歳以上の場合は、共に映画鑑賞料金が割引になる)」という制度がありますが、見たところ、妻が夫を連れてくるパターンがほとんどです。女性が作品を選ぶ選択肢を握り主導権を持っている。その逆、夫が妻を連れ来る、ということはまずありません。

男性はアクティブラリビングの方が多いからでしょうか、映画館に足を運ぶのは女性ほど多くはありません。しかし、会社をリタイアした後も勉強しているなど思わせる博

学な方が多くいます。男性に受けれる映画はヒットラーなど歴史物、音楽などのドキュメンタリー作品でしょうか。ハードなアクションやカーチェイスのある作品も見てもらいたいと思い、SNSなどで宣伝していますが、なかなか来てくれません。

(金澤実幸)

## 今、映画館は。 シニアが支えるミニシアター

配偶者や仲間との共通の趣味として「映画鑑賞」を選ぶ人たちが、シニア世代に増えてきました。昭和時代の若い頃に映画館での鑑賞を楽しんできた世代が、手軽さなどを見直してふたたびスクリーンに戻ってきたとされています。そういう状況の中、独自に活動するミニシアター利用者について、浜松・シネマイーラの榎本雅之さんに伺いました。

私が、シネマイーラをスタートさせたのは2008(平成20)年12月。浜松東

映が閉館することになり、映画館を存続立ち上げ、来年で10年になります。年間

150本ほどの作品を扱い、2016年末で総上映本数は1,000本を超えた。

観客層の中心であるシニアの方々と経営者の私自身が同世代なので、観客

がどんな映画を観たいのかが感覚的にわかるのは、強みだと思っています。

連で男性の最高齢は93歳、女性も90歳代の方が数人います。浜松の街に出て映画を観る、ということが生活の目的になっています。

方と重なるからでしょうか、シニアのお客さまは確実に観に来てくださいます。

## ◆映画館支配人として思うこと

シネマイーラだけではなく、全国で頑張っているミニシアターの多くには、経営者と観客の高齢化・設備の老朽化という共通の問題があります。

「チャンバラや西部劇など、昔の映画を上映してほしい」という要望が時々あります。でも、昔のフィルムもそれを上映する

機材もなく、映画の配給自体がありません。

デジタル化されたデータで実際に上映したこともありますが、内容に注文をつける人が必ずしも来場してくれるわけではなく、観客は入りませんでした。

僕が東映にいた時に冗談分と思つて見ていた高倉健・菅原文太・松方弘樹・渡瀬恒彦、みんないなくなつちゃいました。でも、昔を懐かしんでばかりいても仕方ないと思うんです。映画館を始めた10年前とは自分も状況が変わつきました。

僕は「今を生きる」という言葉が好きです。今、シネマイーラの会員の皆さんはこの映画館を支持してくれていると思ってますし、僕は支えられている感じでいま





# もう一度人生と向かい合うためのDVDガイド



ドラマを見るということは、映像を通じての人生の疑似体験です。過去を思い出したり、現実と向かい合ったり、未来を先取りしてみたり。ここでは、人と人との関係をさまざまに見直すきっかけになる映画を選んでみました。男女共同参画の視点を意識すると、ドラマの見え方も少し違ってくるかもしれません。



## カレンダー・ガールズ 特別版

ナイジェル・コール監督 2003年  
イギリス・アメリカ合作  
ウォルト・ディズニー・ジャパン  
DVD 1,429円+税  
(C) Buena Vista Home Entertainment, Inc.

「ヨークシャーの花は女性に似ている。  
生長を重ねるたびにその美しさを増していく。  
盛りを過ぎても見事に咲き誇る。」

この言葉を残し白血病に倒れた夫の死に落ち込む親友を励ますため、クリスは仲間で“芸術的”ヌードカレンダーを作り、収益を病院に寄付することを提案。絶余曲折の末、カレンダーは大成功しハリウッドからも招かれ舞い上がるが…。友のため、そして自分のため、盛りを過ぎても咲き誇った彼女たちが、本当に大切なものは何かを見つけるまでの実話をもとにした物語。

(矢)

## 幸せなひとりぼっち

ハンネス・ホルム監督 2015年 スウェーデン  
発売元: アンプラグド 販売元: ボニーキャニオン  
DVD 3,800(本体)円+税  
ブルーレイ 4,700(本体)円+税  
(C) Tre Vanner Produktion AB. All rights reserved.

国産車を愛するスウェーデン人の実直で偏屈な性格のオーヴェは、妻に先立たれ自らも死を決意。そんな時、隣に日本車に乗った陽気な移民家族が引っ越してくる。しぶしぶ彼らと関わる中で、ひとりぼっちと思っていた日々が少しずつ変わっていく。性別・民族・世代などさまざまな異文化との交流が、人生を新たな角度からとらえる契機になることを教えてくれる。

(金)

(矢) はままつ映画祭実行委員・  
矢頭かおる

(金) ねっとわあく編集員・  
金澤実幸



## ミニシアターと作品

ミニシアターの常連だというシニア女性は、「ここで上映される映画は全て観に来ることにしている」と言った。旅行やコンサートに行くよりも、手軽で安い。少しの時間で気分転換になる。上映される作品を全て観るということは、自分では選ばないジャンルやテーマの作品も観ることになり、思わぬ良い作品との出会いがあるかもしれない。そしてミニシアターという空間は、その場に居合わせた映画好きの人たちとの出会いの場でもある。

今は映画館に足を運ばなくても、DVDやインターネットの動画配信で好きな時に観たい映画を楽しむことができる。それでも大きなスクリーンで映画を観るというのは、特別な時間で、日常を忘れ、作品の世界とじっくり向き合うことができる



## マイ・インターン

ナンシー・マイヤーズ監督 2015年 アメリカ  
ブルーレイ 2,381円+税 / DVD 1,429円+税  
ワーナー・ブラザース ホームエンターテイメント

ファッション業界で華麗に働く若き女性社長のもとに、70歳を超えたベンがインターンとして入社。最初は若者ばかりの社内で浮いていた彼が、徐々に社長を支える存在になってゆく。主演のロバート・デ・ニーロ（ベン）のようになれないかもしれない。しかし、年齢を重ねてからの、若い世代や年下上司との向かい合い方は、男性だけでなく女性にとっても参考になるはず。（金）



## 人生は小説よりも奇なり

アイラ・サックス監督 2014年 アメリカ  
発売中  
DVD 3,800円(税抜)  
発売元: コムストック・グループ  
販売元: ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント



舞台は2011年に同性婚が合法となつたニューヨーク。39年間連れ添った老カップルのベンとジョージは家族や友人に祝福され、結婚式を挙げる。しかし、社会の差別や偏見は根強く、ジョージは同性婚を理由に職場を解雇されてしまう。追い打ちをかけるように保険や年金問題など心配ごとが押し寄せ…。苦境に立たされながらも、お互いを心から愛し慈しみ合う二人の姿に心打たれる、ほろ苦い人間贋歌！（矢）

## 家族はつらいよ

山田洋次監督 松竹 2016年 日本

長年連れ添ってきた妻が、誕生日プレゼントに笑顔で希望したのは「離婚届」。妻の決意が固いことを知った夫や子どもたちは驚きあきれ振り回される。離婚理由と結果は？ほのぼのコメディーの中に、家庭トラブルに直面した夫婦（特に男性）のよくある姿をシビアに描写。大笑いしながら観た後にわが身を顧みると、他人事じゃなかったり？（金）

良さがある。ミニシアターは、独自のこだわりのある作品選定を行う。旧作のリバイバルやドキュメンタリー、社会問題を扱う作品も多い。介護、老い、家族、子育て、仕事、結婚など、作品中の出来事を男女共同参画の視点で捉えると、新たな気づきや発見がある。

最近はシニアが関心を持つテーマの作品やシニアが主人公の作品も増えた。「笑う102歳×2」「素敵な遺産相続」「八重子のハミング」「ターシャ・テューダー 静かな水の物語」「人生フルーツ」などはここ数年でミニシアターを中心に公開され、シニアの様々な生き方や人生の選択を見せてくれた。憧れの生き方、見え隠れする社会問題など、観る側の視点次第で受け取るものが多いはずだ。（國井良子）

サブカル大好き  
編集員酒井が  
チョイス

## あざれあ図書室にある おすすめコミックスを 紹介します!



(よしながふみ作、白泉社)

大奥が男女逆転したら、という発想から生まれた歴史漫画。女将軍であろうと、女として求められることは他の女性と変わらない。究極のキャリアウーマン達の生き様は、仕事と家庭の両立の参考になるかも？



(さいとうちほ作、小学館)

男装少女・ウテナが「王子様とお姫様」というジンジャー構造に挑む物語。「王子様を夢見る女の子が、実は男の子が王子様である為の小道具にすぎない」と気づいた時に始まるウテナの「革命」は、勇気と共に感を与えてくれます。



(萩尾望都作、小学館)

我が子が「醜いイグアナ」に見えてしまう母の苦悩を描く短編。男性に愛されたくて素の自分（イグアナ）を捨てた女性が、かつての自分に似た娘を愛せず否定する姿は、女性性の押し付けの恐ろしさを感じます。

#### 〈利用案内〉

貸 出：図書5冊、ビデオ・DVD2本(2週間)

\*貸出カードが必要です。現住所、生年月日を確認できる身分証明書をお持ちのうえ、カウンターにてお申込みください。

開室時間：平 日 9:00～18:00

土日祝 9:00～17:00

休 室 日：第1・3・5日曜日、図書整理日、年末年始

T E L：054-255-8763

F A X：054-255-8759



#### バックナンバーのご案内

「ねっとわあく」のバックナンバーは、静岡県男女共同参画ポータルサイト「あざれあナビ」で電子BOOKまたはPDFデータで閲覧できます。冊子送付希望の方は、NPO法人あざれあ交流会議へお問い合わせください。在庫がない号もあります。ご了承ください。

TEL:054-250-8147 (NPO法人あざれあ交流会議)

あざれあナビ <http://www.azarea-navi.jp/>

静岡県男女共同参画ポータルサイト  
**あざれあナビ**



Shizuoka Prefecture

「ねっとわあく」は年1～2回発行します。県民生活センター、県内の男女共同参画センター、市町役場、公民館などの公共施設で配布しています。会社やご友人にもぜひご覧してください。

# ねっとわあく

2017/10/25 Vol.69

## 編集後記



後列左から 酒井美優 金澤実幸 須藤八千代  
前列左から 薬科可奈 國井良子 赤堀三代治

●人生90年、100年時代。先のことを考えると、暗くなることばかりが思い浮かぶ。それでも、と今の私が40年先の私のためにできることを考えた。よく食べて、しっかり働いて、ぐっすり寝る。そして継続して楽しめる趣味(やりたいこと)と仲間を見つける。シニアに向けて、成長し続ける私でいたいと思う。  
(編集長 國井良子)

●縁ありまして、編集に参加させて頂くこととなりました。NPO法人、団塊創業塾のメンバーの方々を対象に「シニアライフの男女共同参画を考える」というテーマで座談会を担当させて頂きました。座談会に参加しながらいくつかの気づきがありました。情報誌「ねっとわあく」の今後の編集の中で生かしていきたいと思います。  
(赤堀三代治)

●はじめての編集員としての仕事を通して、東西に長い静岡県の広さを改めて感じました。そして、それぞれの地域に住む人の異なる価値観をとらえることの大変さも痛感しています。微力ではありますが、及ぶ範囲でできることをやっていきます。  
(金澤実幸)

●長年男女共同参画に携わっている編集員さんばかりで恐縮でしたが、いろいろなことを勉強させて頂くことができました。現状の男女共同参画の課題や実践は勿論、ジェンダー的視点からの「物の見方」の多様性を学べたことが大変ありがたかったです。  
(酒井美優)

●編集員公募に応募するところから新しい出会いと編集会議、そして原稿完成まで楽しました。企画に協力していただいた方々にお礼申しあげます。  
(須藤八千代)

●39歳の私にも「シニアライフの男女共同参画」は身近なテーマだと学んだ。現シニア世代を手本に私と夫がどう生き老いるかは、わが子らの人生を左右する最重要課題なのだ。常に刺激的な編集員の皆さん・頼れる國井編集長と事務局津田さん・優しい大村里美さんに深謝。  
(薬科可奈)

発行日/ 平成29年10月25日

企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ

〒422-8063 静岡市駿河区馬渕1丁目17-1

TEL/054-250-8147 FAX/054-251-5085

編集長/ 國井良子

編集員/ 赤堀三代治/金澤実幸/酒井美優/

須藤八千代/薬科可奈

表紙/ えだむらかつみ

イラスト/ 池端久恵

印刷/ 株式会社 石垣印刷